



第130号

Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第110回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第111回 WFP 作品展

結果発表

- ・ 第109回 WFP 作品展

読み物

- ・ FairyTopIX2018 お気に入り投票要項(再掲)
- ・ 「不審な方程式」顛末紀(神無太郎)



2019/4

はじめに



令和

今月末をもって平成が終わります。前回昭和が終わって平成に改元されたのは昭和天皇が崩御された事によるものでしたので自粛ムードの中でした。今回は生前退位による改元ですのでお祝いムードになりそうです。

新元号「令和」の出典は万葉集巻五の「梅花の歌三十二首 序文」にある以下の文章。

于時、初春令月、氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香。

現代語訳：時あたかも新春の好き月(よきつき)、空気は美しく風はやわらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉(おしろい)のごとく白く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている

「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」令和時代はどんな時代になるのでしょうか。

ちなみに、私と皇太子様は生まれた年も月も一緒に、両親からどちらが先に生まれるかと話していたと聞きました。(先に生まれたのは私でした。

改元を記念して作品展を開催します。要項は最終ページに載せていますので歴史の1頁にぜひご参加よろしくお祈いします。

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第130号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

第110回WFP作品展(再掲)及び 第111回WFP作品展

担当：神無七郎

山田嘉則 作
オセロ詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								王	二
					歩				三
									四
						桂			五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛香
(詰将棋パラダイス,1993年6月)

今月の詰パラで「オセロ将棋」というルールが提案されました。縦・横・斜めに並んだ相手の駒を自分の駒で挟むと、相手の駒が自分の駒になるというものです。古参のフェアリー愛好家ならご存知とは思いますが、同様のルールはこれまで何度か提案されてきました。

最初は1982年12月、カピタン30号で小谷善行氏が提唱したものです。この時のルールは、玉も反転の対象であり、次の手で玉を反転させられる状態は王手とみなされます。更に、駒を反転させたとき二歩や行き所のない駒を生じる場合も王手が優先されます。これは極めて過激なルールであり、創作が困難なためか、ほとんど作品は見られませんでした。

次は10年後。詰パラ1992年1月号で原岡望氏がもう少し穏やかなルールを提案しました。玉も反転するという点では小谷善行氏の提案と同じですが、以下の2点が違います。

1. 盤上の駒を動かした時のみ駒をひっくり返せる
2. 駒をひっくり返すと二歩や行き所のない駒を生じる場合は反則

駒を打っても反転しないのはオセロっぽくないですが、翌1993年には山田嘉則氏がこのルールで5作品を発表しています。

冒頭で紹介した図はその中の一つ。例題として発表されたため解答募集は行われていませんが、当時の「オセロ詰」の理解に役立つ良い作品だと思います。皆さんもぜひご一考ください。協力詰ではないので変化もきちんと読む必要があります(解答は本稿末尾に掲載)。

ところが、マイルドになった「オセロ詰」でさえ、これ以上の広がりは見られませんでした。たぶん王手の概念自体が変わるルールは創作が難しかったのでしょう。そして今、玉を反転の対象から除外した新しい「オセロ将棋」が提唱されました。約四半世紀を経てリニューアルされた「オセロ将棋」。今度こそ詰将棋の世界に定着するのでしょうか？

オセロ以外でも将棋に他のゲームの要素を取り入れた変則将棋は提案されています。例えば縦か横に挟むと取れる「はさみ将棋将棋」や、囲むと取れる「囲碁将棋」等です。これらのルールの詰将棋は「オセロ詰」以上に実績がないのですが、作るのは易しそうです。

試しに「囲碁詰」を考えてみましょう。

囲碁詰 1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							金		七
								王	八
									九

持駒 香
作意：29香まで1手

初手29香は次に18金で玉を取る「王手」。受方にこれを防ぐ手段はなく、これで詰みです。もし持駒が歩なら29歩は打歩詰です。何だか発展性の乏しそうなルールですが、工夫次第で「化ける」かもしれません。一度に複数の駒を取れるとか、駒を取り除く手が開き王手の代わりになる等の面白い性質があり、趣向作との相性も良さそうです。

今回取り上げた「オセロ詰」は、昔から何度も提唱されては消えていったルールの例ですが、フェアリーではこうしたことは日常茶飯事です。いわゆる「車輪の再発明」ですが、これを過度に恐れる必要はありません。ちょっとした細則の違いで一躍人気ルールの仲間入りする可能性もあるので、思いついたことは何度でも試してみると良いでしょう。

それでは、今月の WFP 作品展の紹介です。

今回の出題は第 110 回の再掲載分と、第 111 回の新規出題分です。

第 111 回は全 17 題の大量出題。掲載時期の調整を依頼することも考えたのですが、実は既に次回の出題予定に織り込み済みの作もあり、これ以上の先送りは危険と判断しました。

内容的にも難度が高く、解答は大変だと思いますが、解けた分だけでも解答をお願いします。

〔第 110 回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第 110 回通常出題分は全 11 題。セット出題を含むので実質的には 12 題です。内訳は神無太郎氏 3 題、占魚亭氏 1 題、Pontamon 氏 1 題、はなさかしろう氏 1 題(実質 2 題)、変寝夢氏 4 題、尾形充氏 1 題です。

示し合わせたわけではないでしょうが、短編ばかりの出題となりました。中立駒を使った作品が多く、中立駒にどれだけ慣れていてか難易度は大きく変わりそうです。

110-1～**110-3** は前回に引き続き神無太郎氏による Imitator+中立駒の作品。玉以外の駒がすべて(受方の持駒も含め)中立駒になっているという設定の問題です。前回との違いは持駒が中立香 2 枚であること。合駒や壁駒打を交えた派手な展開が予想されますね。初手香打しか王手がないのは救いですが、それでも難解だと思います。

110-4 は前回に引き続き占魚亭氏による「点鏡」ルールの作品。**109-5** とは玉位置が違いますが、それが手順にどのような影響を与えるでしょうか。

110-5 は Pontamon 氏の推理将棋。「棋譜表記が同じ着手があった」という条件が特徴的です。例えば初手から「48 金、84 歩、38 金、85 歩、48 金」とした場合、初手は金が上がる手、5 手目は金が寄る手ですが、棋譜表記上は同じになります。動きは違っても棋譜表記が同じであれ

ばこの条件を満たすことに注意してください。

110-6 ははなさかしろう氏の中立駒を使った変則推理将棋。第 105 回 WFP 作品展の **105-7** と同様のルール設定です。

念のためその時のルール設定上の注意を再度掲載します。

本局では中立駒を使用するに当たって、主に 2 つ注意事項があります。

一つは、「玉も中立駒」の可能性があるので、もし玉が中立駒の場合、「二玉詰」のルールが適用され、どちらかの玉に対する王手の回避ができない場合は「詰」とみなします。詳しくは以下の通りです(作者の投稿原稿より引用)。

-
- ・中立玉：両者共に動かすことができ、両者共に詰ますことができ、両者共に王手回避義務がある玉。具体的には、手番の側は以下の手順で取り扱う。
 1. 中立玉を取ることができる状態の場合、その前の相手の着手が王手放置の反則。初形配置だった場合は非合法。
 2. 中立玉が自玉だとして王手をかけられていたら回避しなければならない。このとき、中立玉を自玉として動かしても良い。回避できない状況の場合、他に自玉があったとしても詰みとなり、終局(玉と太子がいる場合とは異なり、対局の継続はできない)。
 3. 中立玉が相手玉だとして王手をかけることができる。中立駒で王手をかける場合は反則手にならないよう利きの向きに要注意。中立玉を自駒の利きに動かしても王手になる。

もう一つ注意しないといけないのは、中立駒を使用した場合でも局面の「合法性」が要求されるということです。設問全体の枠組みを含め、こちら作者の投稿原稿より引用します。

共通する設問の枠組みは以下の通りです。

- 1) 初形配置に駒を並べる。
- 2) 条件に定める枚数の駒を中立駒にする。但し、局面が非合法になるような中立駒への変更は不可。局面が非合法になる理由には二歩と王手放置があり、具体的には、全ての歩、41 金、61 金、59 玉は中立駒に変更できない。

3) 推理将棋同様に対局をシミュレートし、条件を満たすような中立駒への変更駒と対局の手順(棋譜)を推理する。通常の推理将棋同様、対局過程での王手義務はなく、詰み判定は対局ルールのみによって行う(条件はあくまで詰みまでの手順に対するものであり、詰み判定を束縛しない)。

以上のルール設定で、全着手駒取りの詰手順を求めよというのが今回の設問。確かに全着手駒取りは普通の駒では無理ですね。まずは、実戦初形でいろいろな駒を中立駒にして、効率の良い駒取りパターンを探るところから始める必要があります。

(※追記) ブログ等で告知した通り、110-6(a)に余詰がありました。不詰ではないので解答募集は継続し、修正は結果稿で紹介します。

110-7~110-10 は変寝夢氏のリパブリカンと All-in-Shogi。110-7 では受方持駒制限があり、駒不足に悩まされそうですが、使用駒が中立駒なので、駒はちゃんと足りています。**110-7~110-10** の All-in-Shogi では駒取りに関する規則や「直前の局面に戻せない」というルールをしっかりと頭に入れて解図してください。

110-11 は第 101 回以来の登場となる尾形充氏の自玉詰。大駒で玉を追い回す長手数余詰を防ぐため「最善」指定が付いています。また、同手数駒余り変化を、駒の余らない変化に比べて劣位の手順として扱うというルールも適用されます。ただし関係するのは収束部分だけです。あまり神経質になる必要はないでしょう。

〔第 111 回作品展各題への補足説明〕

第 111 回の出題は何と全 17 題。内訳は神無太郎氏 5 題、占魚亭氏 3 題、一乗谷酔象氏 1 題、Pontamon 氏 2 題、たくぼん氏 2 題、変寝夢氏 2 題、尾形充氏 2 題です。単に出題数が多いだけでなく、難問も目白押しなので試練の回と言えるでしょう。限界への挑戦のつもりで全題正解を目指すか、易しそうな作を狙って解くか、逆に一番難しいものに狙いを絞るか……それは解答者の皆さんにお任せします。

111-1~111-5 は前回、前々回に引き続き神無太郎氏による Imitator+中立駒の作品。玉以外の駒がすべて(受方の持駒も含め)中立駒になっているという設定の問題です。この 5 題にはある共通性があるので、どれか解ければそれが

ヒントになります。第 109 回の作品も参考にしてください。

111-6~111-8 は占魚亭氏による Imitator 作品の三姉妹。よく似た姉妹ですが、玉位置やルールが少しずつ違っています。ヒントはちょっと出しにくいのですが、担当の予想では **111-7** が一番易しく、**111-6** が最も難しいと思います。でも、担当の予想が正しいとは限らないので、あくまで自分の感覚を優先してください。

111-9 は一乗谷酔象氏の推理将棋。氏が本作品展に投稿する推理将棋は、「究極の手順」を求めるタイプの作品が多いのですが、本作も連続逆王手 28 回(最初の王手も入れると 29 連続王手)という、途轍もない手順を求める問題です。条件が 10 個もあるので大変そうに見えますが、まずは最初の 2 つの条件を満たす解を求めてください。この 2 つを満たす解は準正解として 1 点、すべての条件を満たす解は 2 点で解答成績に計上します。連続逆王手のイメージが湧かない方は、「おもちゃ箱」の「記録に挑戦!」「4-2 1 連続逆王手回数」(<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/challenge/index4.htm#kiroku4c>)が参考になると思います。

111-10 と **111-11** は Pontamon 氏の推理将棋。両作とも「連続」がキーワードです。また、**111-11** で「成香の着手は、香の着手ではないよ」という台詞がありますが、これは成香の着手と生香の着手は(たとえそれが物理的に同一の駒でも)区別するという事です。なお、手数の短い 11 手の方が後になっているのは、投稿順に出題番号を振る本作品展の方式を作者が読んだこと。見事、狙い通りゾロ目を獲得しました。

111-12 と **111-13** はたくぼん氏の協力自玉詰。共に受方持駒制限があります。**111-13** では手数の確認も忘れずに!

111-14 と **111-15** は変寝夢氏の All-in-Shogi。どちらも詰上りは All-in-Shogi 独特のものです。直前の局面に戻せないことを利用した詰上りを目指してください。

111-16 と **111-17** は尾形充氏の作品。**111-16** の PWC は駒が消えないルールなので、ステイルメイトにするには「手筋」が必要です。**111-17** の最善自玉詰は今回唯一の対抗系ルール。前回の **110-11** と異なり「同手数駒余り」に関する規定は不要です。純粹に攻方最短・受方最長の手順を求めてください。

解答要項

第 110 回分解答締切:2019 年 5 月 15 日(水)

第 111 回分解答締切:2019 年 6 月 15 日(土)

宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

WFP 作品展: 今後の予定

7 月は「氾濫」結果稿の作成と重なるため、6 月号の新規出題と 7 月の結果稿はお休みさせていただきます。今後の予定は以下のようになっていますので、あらかじめご承知ください。

	5月	6月	7月	8月
第111回	再掲	結果		
第112回	出題	再掲	再掲	結果
第113回			出題	再掲
第114回				出題

ルール説明

※WFP のページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule97.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【Imitator】(■または I)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【中立駒】(「」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【点鏡】

55 に関して点对称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

- ・行き所のない駒の禁則は適用されない

【受先】

受方から指し始める。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。(WFP122号参照)

(補足)

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる

【最善詰】

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。(補足)

- ・いわゆる普通の詰将棋から枝葉（無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則）を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数数の余詰は不問。

【自玉詰】

攻方は自玉を詰めるよう王手を掛け、受方はそれを妨げるよう応じる。

- ※最善自玉詰では攻方最短・受方最長のみが正解。また、110・111では同手数駒余り変化を、駒の余らない変化に比べて劣位の手順として扱うルールも適用される。

【AntiAndernach】

駒を取らない盤上の移動（駒を取る及び持駒を打つ以外の着手）を行うと、着手後に相手の駒となる（玉を除く）。

(補足)

- ・細則は Andernach と同様で「駒取り」を「駒を取らない盤上の移動」に読み替える。
- 1) 駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合相手の駒にならない
 - 2) 駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
 - 3) 駒を取らない盤上の移動の場合に限り、8段目への桂の不成、9段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメ

イトにする。

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。飛び越すことは可能。

	3	2	1	
				一
	●	●	●	二
	角	桂	香	三

例えば左図で、
 12 香や 11 香成は不可。
 22 角や 11 角は不可。
 11 桂成や 31 桂成は可。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

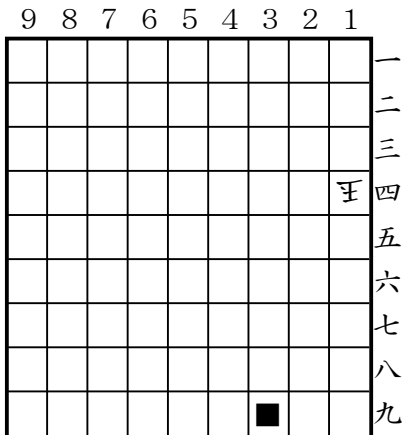
戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。



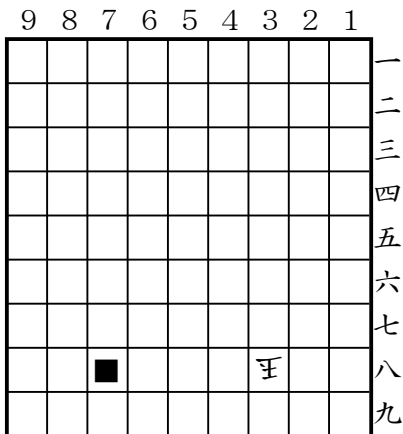
<第 110 回>解答締切:2019 年 5 月 15 日(水)

■ 110-1 神無太郎氏作
協力詰 5手



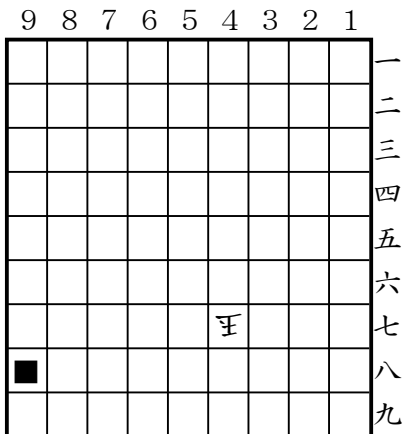
持駒 n香2
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

■ 110-2 神無太郎氏作
協力詰 9手



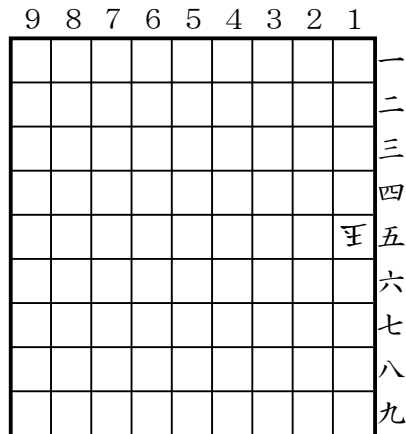
持駒 n香2
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

■ 110-3 神無太郎氏作
協力詰 9手



持駒 n香
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

■ 110-4 占魚亭氏作
点鏡協力詰 4手 (※受先)



持駒 角銀

■ 110-5 Pontamon 氏作
推理将棋

「昨日の対局は、駒成なく 11 手目の歩の手で詰めたよ」
「最終手は歩だと聞いたから歩成したと思った」
「成る手が無かったから 8 手目までに不成が 3 回もあったよ」
「あと、棋譜表記が同じ着手があったらしいね」

[条件]

- 1) 11 手目の歩の着手で詰んだ
- 2) 駒成は無く 8 手目までに不成が 3 回
- 3) 棋譜表記が同じ着手があった

■ 110-6 はなさかしろう氏作
推理将棋×中立駒 全着手駒取り

(a)、(b)それぞれについて、中立駒にした駒と詰みまでの手順を推理してください。

(a)

- ・初形配置のうち 4 枚を中立駒にした合法局面から 6 手で詰んだ
- ・6 枚の駒が取られた
- ・不成なし

(b)

- ・初形配置のうち 4 枚を中立駒にした合法局面から 12 手で詰んだ
- ・飛角金銀桂香歩を含む 12 枚の駒が取られた
- ・成なし

※本問では「中立」は駒種概念とは無関係とします。つまり例えば、中立角も通常の角も、駒種は同じ「角」として扱います。

- 110-7 変寝夢氏作
リパブリカン協力白玉詰 6手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
									王	四
										五
										六
							銀			七
										八
										九

攻方持駒 n香
受方持駒 なし
※銀香は共に中立駒

- 110-8 変寝夢氏作
All-in-Shogi協力詰 7手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 桂2

- 110-9 変寝夢氏作
All-in-Shogi協力白玉詰 8手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
							飛			四
									王	五
					皇		飛			六
									王	七
										八
										九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

- 110-10 変寝夢氏作
All-in-Shogi協力詰 9手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
									金	五
										六
								王		七
							王			八
										九

持駒 なし

- 110-11 尾形充氏作
最善白玉詰 14手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									王	一
							と			二
							龍			三
									と	四
									王	五
									歩	六
										七
										八
										九

持駒 金2

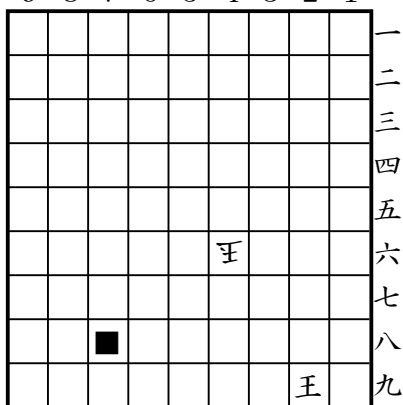
※同手数駒余りを劣位変化とする



■ 111-7 占魚亭氏作

協力自玉詰 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



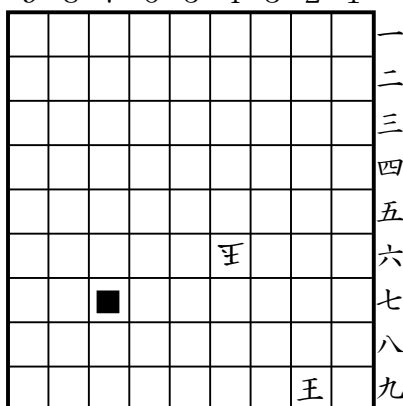
持駒 飛

※■:Imitator

■ 111-8 占魚亭氏作

協力自玉スタイルメイト 6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛

※■:Imitator



■ 111-9 一乗谷酔象氏作

推理将棋『平成の逆王手定跡』

博士「新定跡の研究は進んでいるかな。たまには一局やるか」

助手「はい。私の先手番でお願いします」

…31 手目先手着手の後、32 手目後手の手番で…

博士「初王手。目の薬」

助手「目には目を。王手には王手を」

博士「王手！」

助手「王手！！」

…60 手目後手の手番で…

博士「王手!!!!!!!!!!!!!!」

助手「あ。詰みですね。負けました。感想戦をお願いします」

博士「この将棋、先手は4連続で歩の手を指し、後手は5連続で玉の手を指したな」

助手「同種の駒の利きへの着手が10回あり、「同」の付く着手が17回ありました。そして、銀の手より後に金の手はありませんでした」

博士「31手目まで王手がなかったが、次の手から新しい展開になった。29回も王手が続いて、28連続逆王手とは驚いたよ」

助手「不成の手が20回、両王手が1回、3筋の手が9回でした」

博士「まさに2019年、平成31年に相応しい対局。平成の逆王手定跡の誕生だ」

[条件]

- ① 60手目に29回目の王手で詰んだ
- ② 31手目まで王手はなかった
(32手目が初王手)
- ③ 不成の手が20回
- ④ 両王手が1回
- ⑤ 3筋の着手が9回
- ⑥ 先手は4連続で歩の手を指した
- ⑦ 後手は5連続で玉の手を指した
- ⑧ 同種駒の利きへの着手が10回
- ⑨ "同"の付く手が17回
- ⑩ 銀の手より後に金の手はなかった

■ 111-10 Pontamon 氏作

推理将棋

「駒打ちすることなく 19 手で詰んだよ」
 「どんな対局だったの？」
 「ふたつの駒それぞれを連続で同じ回数動かす手が先後ともにあって、連続回数は先手は 3 回で後手は 4 回だった」
 「先後で着手は似てるけど、先後のふたつの駒の駒種が同じってことじゃないんだ。あとは？」
 「18 手目は空き王手だよ」
 「4 回連続だとか空き王手だとか、いつも代わり映えしない対局だな…。ん？18 手目?!」

[条件]

- 1) 駒打ちなく 19 手で詰み
- 2) 先手はふたつの駒をそれぞれ 3 回連続で動かした
- 3) 後手はふたつの駒をそれぞれ 4 回連続で動かした
- 4) 18 手目は空き王手

■ 111-11 Pontamon 氏作

推理将棋

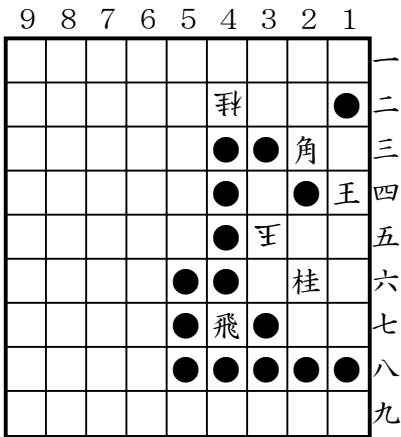
「11 手目に成香の手で詰めたってね。珍しい駒で詰めたもんだ」
 「その成香は、連続する 3 つの段への香着手で成った駒だよ」
 「連続する 3 つの段というと、1、2、3 段とか 2、3、4 段とか 3、4、5 段とかだね。連続しているのは 3 つの段のことだから、それら 3 つの段への香の着手順は関係ないし、何回目の香着手で成ってもいいんだね」
 「もちろん最終手の成香の着手は、香の着手ではないよ」

[条件]

- 1) 11 手で詰み
- 2) 最終手の成香は、連続する 3 つの段への香着手で成った駒

■ 111-12 たくぼん氏作

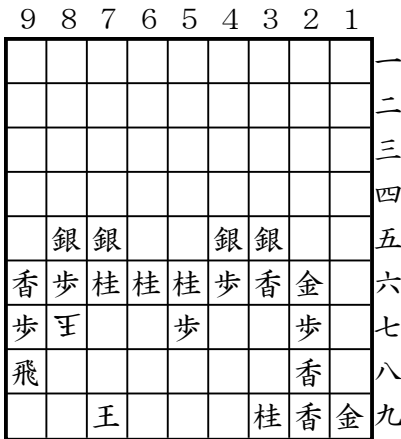
協力自玉詰 90 手



攻方持駒 なし
 受方持駒 なし
 ※●:石 (着手不可、不透過)

■ 111-13 たくぼん氏作

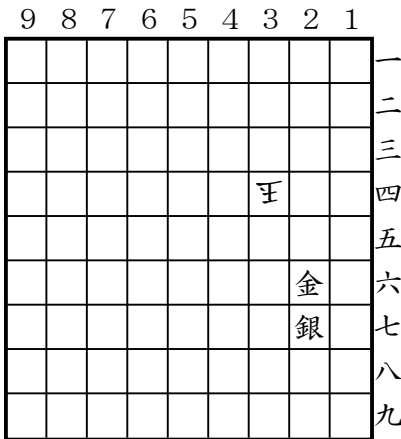
協力自玉詰 56 手



攻方持駒 なし
 受方持駒 なし

■ 111-14 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力詰 7 手



持駒 なし

■ 111-15 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力詰 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
						●		六
						●		七
						王	香	八
								九

持駒 香

※●:石 (着手不可、不透過)

■ 111-16 尾形充氏作

PWC協力自玉スタイルメイト 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
							王		三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛

■ 111-17 尾形充氏作

最善自玉詰 24手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
					料				三
					銀			龍	四
									五
					角	王	料		六
					馬			香	七
					銀	龍			八
					ス			王	九

持駒 金

★山田嘉則氏作オセロ詰の解答

山田嘉則 作

オセロ詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								王	二
									三
						歩			四
									五
							桂		六
									七
									八
									九

持駒 飛香

11 飛 12 桂 15 香 まで 3手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								飛	一
								料	二
								王	三
							歩		四
								香	五
							桂		六
									七
									八
									九

持駒 なし

☆ 2手目はどこに逃げて玉が取られ(反転され)そうですが、桂合が唯一の受け。これに対して攻方 14 桂なら 12 桂が反転して「行き所のない駒」となるというわけです。最終手は 15 香の限定打。14 合は 12 飛で玉を反転させられるので受けになりません。香を 16 以遠に打つと、駒が繋がった状態にならないので 14 合が可能です。つまり、15 香はこれに備えた限定打だったわけです。また、初手 14 香だと 24 玉と逃げられます。自分から挟まれる手だと反転しません。作意の最終手に対して、玉をどこに逃げて、次に挟まれるか、取られるだけなので、これで詰みです。当時の「オセロ詰」のルールがよく分かる作品ですね。

以上

第109回WFP作品展の結果を報告します。

今回の出題は全12題。ツインや複数解の作品を含むので実質的には14題です。解答者数は7名。全題正解者1名。解答の内訳は以下の通りでした。

〔第109回WFP作品展成績〕（敬称略）

○:正解・余詰解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2a	2b	3	4	5	6	7	8	9	10 ₁	10 ₂	11	12	計
たくぼん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14
占魚亭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	-	-	11
一乗谷酔象	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	○	-	○	6
変寝夢	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	○	○	-	6
はなさかしろう	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	○	○	5
縫田光司	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-	○	-	4
Pontamon	-	-	-	-	×	×	-	-	-	-	-	-	-	○	1

ご覧の通り Imitator 絡みの作品で無解が続出。Imitator の「壁」を突破できたお二人のうち、たくぼん氏が全題正解を成し遂げました。

作品の方では既報の通り 109-12 で余詰発生。作者以外の作意解答者はいませんでした。

本作品展では担当者は原則として検討を行

■ 109-1 神無太郎氏作（正解2名）

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
						王				三
										四
	■									五
										六
										七
										八
										九

持駒 n角

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

• Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだ

いけません。また、発表後は作品の不備を理由とした差し替えも行いません。本作品展が正式発表の場であることを再認識していただき、投稿の際は、事前に万全の検討を行うよう、重ねてお願い申し上げます。

け動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

• 中立駒（「區」あるいは「n駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩

を打つことはできない。

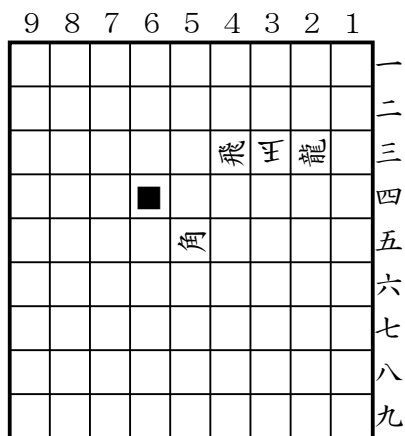
6) 中立駒は行き所ない駒にならない。

7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行く。

【解答】

55n 角 44n 飛 24n 飛 [I65] 43n 飛
23n 飛成 [I64] まで 5 手

(詰上り)



持駒 なし

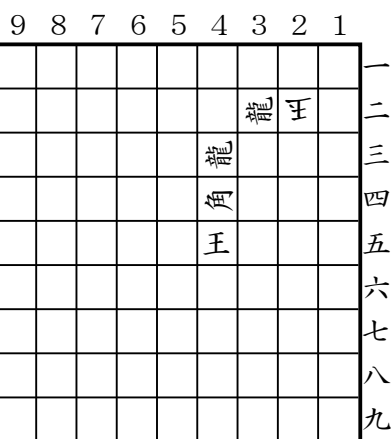
【解説】

詰めにくい中段玉を、詰めにくい中立駒を使って詰めるにはどうするか？

一つの答えは「両王手の利用」です。

「第 47 回神無一族の氾濫」で、神無太郎氏はこんな詰上りを見せてくれました。

【参考】「第 47 回神無一族の氾濫」④の詰上り



持駒 なし

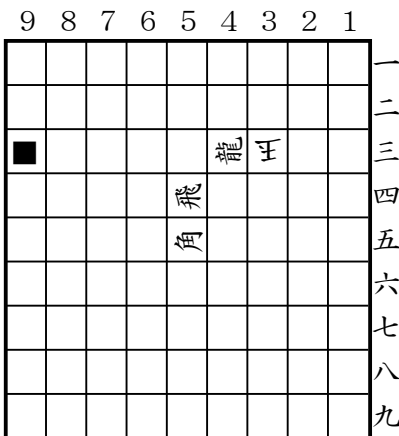
単独の王手なら中立駒を逃がすことで受けられますが、両王手なら 2 枚同時に動かさない

ので、受けにくいというわけです。本局でもこの詰上りを目指しましょう。

【参考手順】

55n 角 44n 飛 54n 飛 [I95] 44n 飛打
43n 飛成 [I94] まで 5 手

(詰上り?)



持駒 なし

Imitator のおかげで 43n 龍を同玉で取れないのでこれで詰み……と思ってしまいそうですが、それは間違い。41n 龍 [I91] とすれば、n 龍を逃がすと同時に n 角の利きを無効化できてしまうのです。本当に Imitator は怖いですね。

でも、ここで挫けてはいけません。両王手を使うという方針自体は間違っていないのです。問題は Imitator の利用法。

上記の解では Imitator を壁に押し付けて、攻方が王手駒を取られないために使っていました。でも、Imitator を利用できるのは攻方だけではありません。受方が王手を防ぐためにも利用できるのです。

具体的には 4 手目 43n 飛がその受け。

これは Imitator を利用して 55n 角の利きを止める手なのですが、まるで自玉に王手を掛ける手に見えます。実際は Imitator の横に角がいるので 43n 飛は自爆手ではありません。初手 55n 角の限定打から 3 手目 24n 飛は、4 手目 43n 飛の妙手を成立させるための伏線だったのです。

43n 飛を配置できれば、両王手の準備は完了。最終手 23n 飛成で Imitator の壁も外れ、飛龍による挟み撃ち型の詰上りが実現しました。

もちろん 23n 飛生はいけません。32 玉と逃

げられるだけでなく、24n 飛生と元の局面に戻す受けも可能です。中立駒を使うときは、常に元の局面に戻す手に注意してください。

以上、両王手を目指して手順を進めたわけですが、詰上りをよく見ると 55n 角も玉に利いており、三重王手になっています。55n 角はあってもなくても詰んでいるのですが、三重王手には違いありません。

中立駒を使って裸玉+Imitator の超簡素形から三重王手を作る。これが今回の神無太郎氏の作品群の共通点なのです。

【短評】

たくぼんさん

43n 飛の発見が全て、55 角から 1 つに繋がる。

変寝夢さん (※無解)

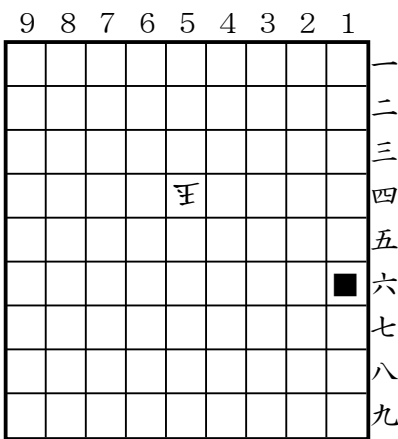
初見の人は、4 3 n 飛が玉方の手とは思わな
いだろうな。

占魚亭さん

綺麗な三重王手。
n 飛の使い方がポイントですね。

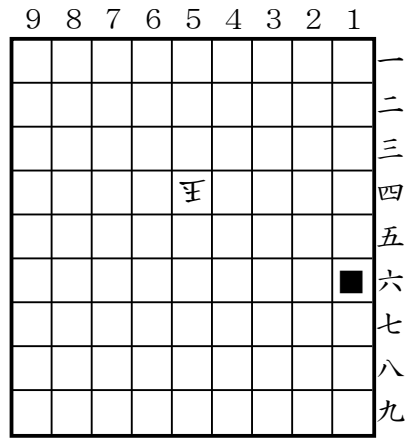
■ 109-2 神無太郎氏作 (正解 2 名)

a) 協力詰 5 手



持駒 n 角
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

b) 協力詰 5 手



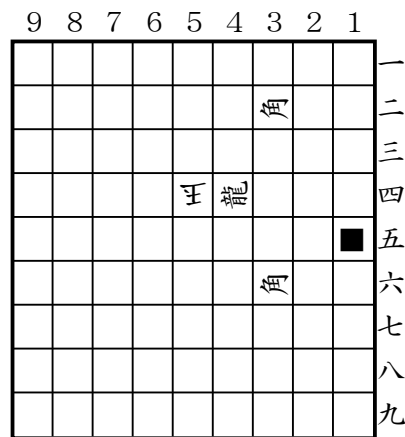
持駒 n 角 2
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

【解答】

a) 36n 角 45n 飛 43n 飛生 [I14] 32n 角
44n 飛成 [I15] まで 5 手

b) 36n 角 45n 飛 32n 角 43n 飛 [I14]
44n 飛成 [I15] まで 5 手

(詰上り)



持駒 なし
(※詰上りは a)b)とも同じ)

【解説】

持駒の種類が同じで数が違う奇妙なツイン。詰上りが同じであることが、更に奇妙さを増しています。

協力系の詰将棋で持駒の種類が同じで数が違う図がどちらも完全作として成立する場合は稀にありますが、通常は詰上りか手数に違いが生じます。持駒が多い方が「駒余り」になり易いので、自然にそうなるのです。

では、本局では持駒の数の違いをどうやって

吸収しているのでしょうか？

秘密は 3 手目と 4 手目にあります。

a) で n 角を打つのは受方であり、それは 4 手目です。b) で n 角を打つのは攻方であり、それは 3 手目です。

持駒になっている間は、中立駒はどちらかの手番側に所属しますが、盤上に戻されるともう所属は関係ありません。中立駒を使うことで、持駒の数の違いを吸収したわけです。着手の順序が変わるだけなら珍しいとは言えませんが、攻方の手と受方の手が入れ替わるのは珍しく、中立駒ならではのマジックと言えるでしょう。

この奇妙さは手順表記にも表れています。

飛が動く手番が違うので、a) の 3 手目には「生」が付き、b) の 4 手目には「生」が付きません。同じ 43 地点でも攻方にとっては可成地域であり、受方にとってはそうではないからです。

さて、ツインの構成に話が集中して、肝心のことを忘れていました。三重王手です。しかも今度こそ成り行きでない（どの 1 枚が欠けても詰みにならない）正真正銘の三重王手です。玉に取られそうな 44n 龍は Imitator が壁に張り付くことで難を逃れており、受方に王手を外す手はありません。

初手 36n 角はもちろん限定打。これより遠くに打つと 63 玉[I24]で逃れます。32n 角ももちろん限定打。n 飛の合駒を開き王手で動かした時、Imitator を止められる位置はここだけです。華やかな空中捕捉を成立させるには、繊細な配慮が必要です。

【短評】

たくぼんさん

- a) とんでもない形の 3 重王手ですね。
- b) 持駒の数だけで違う手順が限定できるなんて不思議です。

変寝夢さん（※無解）

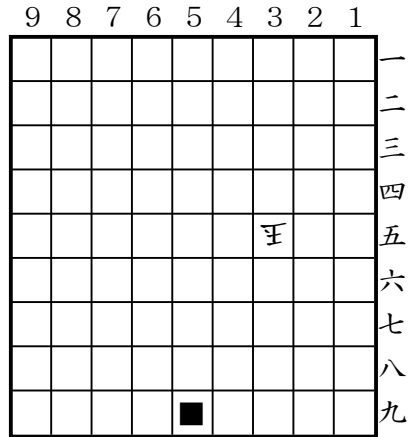
n 角を離して打った時の逃れ手が面白い。最終形は同じなのに、n 角が打たれた手番が違うとはこれ如何に。

占魚亭さん

三重王手パート 2。持駒の枚数で 3・4 手目の順番が変わるのが面白かったです。

■ 109-3 神無太郎氏作（正解 2 名）

協力詰 7 手



持駒 n 角

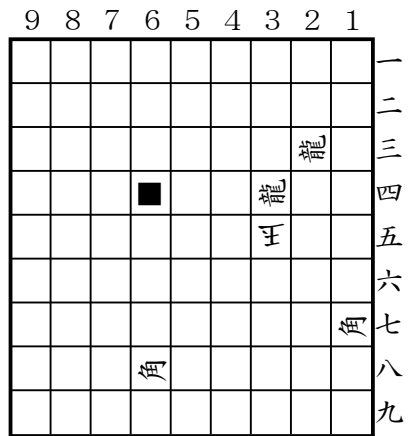
※ ■ : Imitator

玉以外はすべて中立駒

【解答】

17n 角 26n 飛 23n 飛成[I56] 26n 飛
34n 龍[I67] 68n 角 23n 飛成[I64] まで 7 手

(詰上り)



持駒 なし

【解説】

三重王手シリーズの最後は「両王手からの三重王手」。正確に言えば、まるで両王手が掛かっているかのような形からの三重王手です。

実を言うと 109-1 もこのパターンでした。この作品では 4 手目が王手放置の上に、自玉に更に王手を掛けるような受けでした。次に Imitator を動かすことによって潜在的な利きが有効化され、一気に三重王手になる仕組みです。

本局は 6 手目 68n 角が潜在的両王手です。34n 龍の王手を直接受けず、Imitator を利用して壁駒で受け、その駒の潜在的な利きを自玉に

向けて「潜在的な両王手」の形を作るのです。

そして最終手で開き王手を行い、「潜在的な両王手」を「顕在的な両王手」に格上げし、同時に開き王手で新たな王手を1つ追加。合計で三重王手となります。

109-1 との違いは、三重王手の3枚がすべて詰みに関与していること。どれか1枚欠けると詰みになりません。一见すると16角がなくても詰みだと錯覚しそうですが、これがないと**43n 龍引[173]**という受けがあります。繰り返しますが、Imitatorは怖いですね。

本局の面白さはn飛(n龍)の動きからも感じられると思います。23n飛成で作った龍を34に引いた後、その跡地にもう1枚のn飛が23n飛成で入ります。25n飛~23n飛成の繰り返しには趣向の香りが漂いますね。

三重王手のシリーズのトリを飾るにふさわしい、優美な手順の作品でした。

【短評】

たくぼんさん

これも不思議な3重王手。出足が同じ感じなので何とか解けましたが、難しい。

変寝夢さん (※無解)

最終形は中立大駒三重王手だが、これでも王手回避の手があるのではと思ってしまう。

占魚亭さん

三重王手パート3。
この手順は素晴らしすぎます！



■ 109-4 占魚亭氏作 (正解2名 ※実質1名)

点鏡協力詰4手(受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 角桂

【ルール】

• 点鏡

55 に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

• 行き所のない駒の禁則は適用されない

• 受先

受方から指し始める。

【解答】

45歩 77角 65玉 33桂 まで 4手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						桂			三
									四
			王	歩					五
									六
		角							七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

詰上りからの逆算。

点鏡らしさは一応出ている？

【解説】

点鏡ルールにおいて 55 地点はある意味聖域。性能変化を免れる唯一の場所です。本局と次局はこの「聖域」に玉が鎮座しており、ここに留まるか、ここから離れるかが問題になります。

方針としては、前者なら攻方の駒を強める手順を、後者なら玉を弱める手順を考えることになります。

どちらが良いか決めるのは持駒の桂。

性能変化でこれを強めても、相手の駒が桂の利きで逃げてしまうと詰みになりません。つまり攻方の駒を強める方針では上手く行かない可能性が大きいのです。これは次局を見た後のほうが分かりやすいと思うので、次局の解説で改めて説明します。

玉を弱い駒に変身させるなら、玉の周辺に歩を打つのは自然です。とはいえ、どこに打つか、どう詰めるかの組み合わせを考えると、結構迷うと思います。

正解は受方 45 歩・攻方 77 角の組み合わせ。強い駒を先に使うのは意外ですが、角と桂の利きが入れ替わる前提に立てば、合理的で自然な順序です。駒を直接打つとその対称点（以下の解説では 55 に関して点対称の位置をこう呼ぶことにします）に駒を打たれる心配がありますが、既にある駒を性能変化させれば対称点に駒を受けられることはありません。「点鏡」ルールのこの呼吸をぜひ会得してください。

【短評】

たくぼんさん

不思議な初手。駒の利きも交錯してたった 4 手だけど時間が掛かる。

変寝夢さん（※無解）

4 5 桂、6 6 角、6 5 玉、5 7 桂までと思ったら、5 3 打で不詰でした。VM2 でも不詰で焦りましたが、単なるバグでした。

玉を安い駒にするのは有効のようですね。

☆VM2 は変寝夢氏が開発したフェアリー用の検討プログラム VM の後継版だそうです。

Mac 機をお使いの方は期待して公開を待ちましょう。

Pontamon さん（※誤解）

△56 香、▲44 角、△54 玉、▲46 桂

109-5 が先に解けたけど、こちらも構想は同じでした。

☆Pontamon 氏の解では最終手に対し 64 歩などと受けられて不詰。点鏡ルールでは対称点が空所だと詰まないことが多いので注意が必要です。

■ 109-5 占魚亭氏作（正解 2 名※実質 1 名）

点鏡協力詰 4 手（受先）

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 角銀

【解答】

54 金 46 角 64 飛 56 銀 まで 4 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
				飛	金				四
				王					五
				銀	角				六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

本作も詰上りからの逆算。

初手金打ちが通り、幸運でした。

点鏡らしさに欠けますが、ビジュアルが売りということ。

●最善詰

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。(補足)

- ・いわゆる普通の詰将棋から枝葉（無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則）を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数数の余詰は不問。

※本局では同手数駒余り変化を、駒の余らない変化に比べて劣位の手順として扱うルールが付加される

【解答】

45 桂 37 歩 同香 36 角 同香 35 角
33 歩 42 玉 53 角 同角 32 歩成 まで 11 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			飛	科	飛		飛		一
			と		王	と	歩	銀	二
				馬					三
				王				桂	四
					桂				五
						香			六
									七
									八
									九

持駒 なし

〔主な変化〕

- 2 手目) 角合は同香、36 角合、同香、35 合、23 角、31 玉、21 歩成以下同手数駒余り。桂合は同香、36 合、44 桂以下 2 手早い。香合は同香、36 合、34 香以下 2 手早い。
- 4 手目) 他合は 33 歩、31 玉、21 歩成、42 玉、52 と、同玉、53 桂成迄同手数駒余り。
- 6 手目) 飛合は 33 歩、同飛、同香成以下同手数駒余り。

【作者のコメント】

最善詰の詰将棋との違いである無駄合概念無しを利用した作です。詰将棋なら変長ありの 3 手詰になります。

素直に合駒を取っていくと 2 手超過になるため、攻方は手を変えなくてはなりません。

受方が作意以外の合駒をすると早詰か同手数駒余りが生じるため、限定合です。

3 手目の角合は桂をピンする意味、5 手目の角合は 53 に利かせる意味です。

【解説】

フェアリーとしての「最善詰」の登場。

普通詰将棋としてこれを解くと「45 桂 33 合同香成 31 玉 21 歩成 まで 5 手(駒余り)」か、二手長駒余りを許容して「45 桂 42 玉 53 桂成 まで 3 手」になるところ。作者や作品によって暗黙のうちにルールが変わる悪習が普通詰将棋に残っていることを改めて感じさせられます。

「最善詰」導入の目的の一つは、こうした普通詰将棋の悪習をフェアリーに持ち込まないことなのですが、本局が「最善詰」である理由はそれではありません。「最善詰」が無駄合概念を持たないルールであることを積極的に利用しようというものです。

ただし、本局は「最善詰」を単独で用いていません。普通詰将棋で使われる規則の中から同手数駒余り変化を劣位変化とする規則を付加しています。これは短編や中長編の収束部で、非限定を消す手段としてよく利用される便利な規則です。その反面、「詰将棋では駒が余ってはいけない」という初心者にありがちな誤解の元にもなっているので、功罪両面を持つ規則でもあります。まあ、本誌の読者であれば妙な誤解をする心配はないでしょう。

ルールに関する説明はこれくらいにして、今度は解答者の目で本局を見てみましょう。

初手 45 桂は必然。無駄合概念がないので、単純に歩の連続合をし、それを単純に香で取っていくと 13 手掛かってしまいます。指定された手数は 11 手なので、どこかで攻方最短順を逃していることになりませぬ。

手順を見直すと…ありました！ 「45 桂 37 歩 同香 36 歩 同香 …」と安直に進めた手順の 5 手目です。ここで「同香」の代わりに「33 歩」とすれば、以下「31 玉 21 歩成 42 玉 52 と 同玉 53 桂成」と進めて 11 手で詰みます。

でも、困りました。平凡に進めるとどれも駒が余るのです。今度は何か受方の最善手（この場合は駒余りを防ぐ手）を見落としています。

改めて手順を見直すと、一つ妙手がありました。上記手順の最終手 53 桂成を防ぐため、36 の合駒を角にしてピン止めすれば良いのです。

ただし、これは強力な角を攻方に渡すこととなります。本当に大丈夫でしょうか？

ここでまた妙手がありました。角を渡しても更に 35 角合とすれば 53 桂成を防げるのです。

この後、再び攻方の立場で考えましょう。

単に詰めるだけならいくらでも手段がありますが、最短で詰めるには 7 手目 33 歩の筋に入るしかありません。タダで手に入る 35 角を取る余裕はないのです。その結果、タダのはずの 35 角が働き、11 手で駒が余らない攻方最短・受方最長駒余らずの詰手順が現れます。

無駄合概念がないこと、攻方最短を義務とすること、受方最長駒余らずの手順を選ぶこと。本局ではこの 3 つから実に奇妙な手順が生まれています。実戦や普通詰将棋の尺度で考えると何ともバカバカしい手順ですが、これがルール通りの手順であり、奇妙であればあるほどフェアリーとしての価値は上がります。

【短評】

たくぼんさん

どうやったら駒が余らないか……。36 角なるほどです。

変寝夢さん

3 5 角を取った時の逃れ順が 3 4 飛に限定されて欲しかったかな。最善詰と普通詰将棋との考え方の違いがよく分かりますね。

縫田光司さん

最初は問題の意味がつかめずに誤植を疑ってしまったのですが、しばらく悩んだ後で気が付いて膝を打ちました。(この作品を見て今月は解答を送ろうと決めました。)

占魚亭さん

普通詰将棋ルールと最善ルールの違いがよくわかる好編。

一乗谷酔象さん

駒余りにならない順を解答するが合っているか不安。実戦ならどう応じられても詰ます自信あるが……。

■ 109-7 青木裕一氏作 (正解 2 名)

最善詰 69 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
						香		と	二
					歩	歩			三
			と	銀					四
		ス	ス	科	歩			馬	五
			科			玉			六
			歩		皇		科		七
									八
									九

持駒 角香

【解答】

38 香 46 玉 24 馬 35 桂 同馬 56 玉
 46 馬 同玉 13 角 24 歩 同角成 35 角
 同馬 56 玉 46 馬 同玉 13 角 24 歩
 同角成 35 角 同馬 56 玉 46 馬 同玉
 13 角 24 歩 同角成 35 角 同馬 56 玉
 46 馬 同玉 13 角 24 歩 同角成 35 角
 同馬 56 玉 46 馬 同玉 13 角 24 歩
 同角生 56 玉 65 銀 同と 57 歩 45 玉
 46 歩 44 玉 35 角 34 玉 13 角成 25 玉
 35 馬 14 玉 15 歩 同玉 16 歩 同玉
 28 桂 15 玉 16 歩 14 玉 13 馬 25 玉
 26 歩 同玉 35 馬 まで 69 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
						香		と	二
					歩	歩			三
			と						四
			ス	科		馬			五
			科	歩		玉	歩		六
			歩	歩	皇		科		七
						香	桂		八
									九

持駒 なし

【主な変化】

2 手目) 37 桂合は同香、46 玉、13 角、56 玉、65 銀、同と、57 歩以下。
 10 手目) 35 角合は同角生、56 玉、65 銀、同

と、57歩、45玉、63角、34玉、46桂、25玉、36角成以下。

【主な紛れ】

41手目) 35角は51手目の手を省略できるが、1サイクル余計に必要なので6手超過。

【作者のコメント】

最善詰の詰将棋との違いである作意より長い詰みの不問を利用した作です。1サイクルで持駒が単純増する繰り返す趣向なため、詰将棋でやると余詰になります。

アイデア自体は2015年10月詰パラ大学発表の自作の時点でありました(本作の構図もその使いまわしです)。ただ、詰将棋として発表するには増えた駒で何か(剥がし等)する必要があり、その何かが見つかりませんでした。

【解説】

普通詰将棋では「持駒増幅」は使えません。初代伊藤宗看以降、詰上り手余り作品は不完全作扱いとなったからです。

草創期の詰将棋は手余り作品も許容されてきました。従って「持駒増幅」の機構を使った作品も作れます。『象戯大矢数』の馬鋸作品がその実例です。馬鋸に対する合駒を省略するのが作意というのは後世の一部の人々による曲解で、これは駒が余るのを承知の上で長手数を目指した作品だと考えるのが自然です。

しかし「最善詰」なら「手余り不可」という初代伊藤宗看以降のルール設定でも「持駒増幅」の機構を持つ完全作が創作可能です。本局はそれを理論上の存在から、現実の存在に具現化したものです。

そのからくりは簡単。「持駒増幅」の目的を「受方の持駒が尽きるのを待つ」から「必要な持駒を蓄える」という、言葉通りの意味に設定し(『象戯大矢数』の馬鋸作品は、受方の歩を尽きさせるのが目的でした)、余分に持駒を稼ぐ手を最善詰の攻方最短則により排除するのです。

ただ、本局には単なる実験作にとどまらない面白さがあります。

それは打診中合を持駒増幅の機構に使ったことです。序奏を飛ばして、9手目13角と打つ

た局面に注目してください。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
							季	と	二
						季	季	角	三
			と	銀					四
		ス	ス	科	歩				五
			科	王					六
			季	皇		科			七
						香			八
									九

持駒 桂

ここで単に56玉と逃げると「65銀 同と 57歩 45玉 35角成」で詰んでしまいます。打歩詰誘致のため35角合としても「同角不成」と取られて失敗です。

しかし、一旦24歩とすれば攻方は「同角成」と応じるしかありません。「同角不成」だと35角の捨合いを省いて56玉と逃げて詰まないからです。24歩は攻方に成るか成らないかの選択を迫る「態度打診の中合い」なのです。

受方はこの中合いの後、続けて打歩詰誘致の35角の捨合いを行います。攻方はこれも取って、馬を捨て再度13角を打ち直します。この8手で盤上配置は元に戻り、攻方の持駒に歩が1枚増えました。「持駒増幅」です。

攻方は持駒増幅を余分に続きません。必要な枚数を稼いだら、さっさと収束に向かいます。

42手目24歩の局面をご覧ください。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								皇	一
							季	と	二
						季	季	角	三
			と	銀			季		四
		ス	ス	科	歩				五
			科	王					六
			季	皇		科			七
						香			八
									九

持駒 桂歩4

今まではこの中合いを「同角成」で取ってい

たわけですが、今度は「同角不成」で取って収束に向かいます。「態度打診」に対し、成・不成の両方の対応が一局の一連の手順の中で表れるというのは、解答者の皆さんにとっても初めての経験ではないでしょうか。

収束に入る手段は、1サイクル余分に歩を稼いでおいて、13角の代わりに35角と短打する方法もあります。これは手数が余分に掛かるので「最善詰」の要求する攻方最短則に反します。この紛れ筋の逃れ方も最善詰独特ですね。

作者が自作へのコメントで述べている通り、もしこれを普通詰将棋の枠内で実現するなら、繰返しの間に持駒以外も変化するような仕組みを組み込む必要があります。例えば、1歩増える代わりに、収束で使う歩も1枚余分に必要になるような仕組みです。

そのような「擬似持駒増幅」は実現困難に思えますが、実例は既に存在します。

【参考】「将棋墨酔」第36番

七條兼三作
詰将棋 95手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一		銀		と					駒	一
二		歩	銀		駒			駒	と	二
三	歩		歩	駒	駒		駒	と		三
四			歩	歩	歩	歩	駒	歩	と	四
五				駒	駒	駒	駒	歩		五
六	金								王	六
七	ス			龍						七
八			桂	歩	歩	桂	桂	ス	駒	八
九									桂	九

持駒 歩
(詰将棋パラダイス,1980年12月)
(※解答は本稿末尾に)

七條兼三氏は条件作で有名ですが、このような斬新な作品も残しています。この作品の価値が十分に認識されず、「擬似持駒増幅」という重要な分野が、ほぼ手付かずのまま放置されているのは残念です。(担当も長編作家の端くれなので、大きな声では言えないのですが…)

今回の作品を見て興味を持った方は、これを機に新しい仕組みの「擬似持駒増幅」の創作に挑戦してください。

【短評】

たくぼんさん

普通詰将棋でも似たような筋はあったと思うけど、最善詰にすることでこれだけ徹底して繰り返す順に出来る発想に脱帽です。

占魚亭さん

24 地点での成生選択のタイミングがポイントですね。

☆今回の最善詰2局のうち、109-6は正解者5名を集めましたが、109-7は正解者2名にとどまりました。担当は同程度の解答数を予想していたので、意外な結果です。やはり手数の違いが大きかったのでしょうか？

■ 109-8 変寝夢氏作 (正解6名)

レトロ協力詰 -4+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
								駒		四
								歩	駒	五
									王	六
								駒		七
								駒		八
										九

攻方持駒 なし
受方持駒 角桂

【ルール】

•レトロ -m+n 手

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数の逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【解答】

17 龍(+28 桂) 28 桂持 19 龍=飛(+17 馬)

35 馬/28 桂 まで -4+1 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							科		四
					馬	歩	科		五
								王	六
							馬		七
							桂		八
								龍	九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							科		四
						馬	歩	科	五
								王	六
							馬		七
									八
								龍	九

攻方持駒 桂
受方持駒 なし

[出題図への手順]

17馬 同飛成 28桂 同龍 まで 4手

[詰手順] 28桂 まで 1手

【作者のコメント】

余詰がきつく重くなってしまいました。

【解説】

頭の丸い 27角。そして受方持駒の桂。いかにも 28桂を打てと言わんばかりの出題図です。受方持駒には角もあり、これは玉の退路塞ぎに使う駒だと想定できます。

28桂を打つには、龍が邪魔なので、これを移動させる逆算を考えるのが自然な解法。28桂を取れないよう龍を生飛車に戻すこと、玉に逃げられないよう角を馬にして盤上に戻すことに気づけば解決は容易でしょう。ミニチュア版なが

ら、飛(龍)の翻弄が楽しめる作品でした。

作者のコメントにもありますが、逆算手順にも詰手順にも関与しない攻方 25歩、受方 24桂の配置はできるなら省きたいところ。しかし、25歩を省くと、「攻方 25圭 35馬、受方 15桂 16玉 27角 28龍」への逆算が可能ですし、24桂を省くと「攻方 25歩 26圭 38馬、受方 15桂 17玉 18角 28龍」への逆算が可能です。

もし軽い配置で済む余逆算防止のアイデアがあったらお知らせください。

【短評】

たくぼんさん

詰み型を考えたらずとすんなりいきました。

縫田光司さん

龍が強力すぎるので龍の力を弱めるように、と考えたら解けました。

24桂が無いと余詰があるのでしょうか？

はなさかしろうさん

24桂と 25歩の意味を考えるとあまりそう…ですが、とにかく楽しく解きました。

占魚亭さん

竜を飛に戻すことに気付くまで、少し時間がかかりました。

一乗谷酔象さん

桂 1枚で詰む形を目指す。

■ 109-9 変寝夢氏作 (正解 5名)

レトロ協力詰 -6+1手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							皇	王	一
							龍		二
									三
									四
								歩	五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 桂香

【解答】

14 銀(+桂) 23 桂持 25 銀(+14 香)
 15 香(+14 桂) 22 桂 15 香持 / 13 香
 まで -6+1 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							皇	王	一
							科		二
								香	三
									四
							將		五
								糸	六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
 受方持駒 なし

(逆算図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							皇	王	一
							科		二
									三
									四
							將		五
								糸	六
									七
									八
									九

攻方持駒 香
 受方持駒 なし

〔出題図への手順〕

15 香 14 桂 同香 同銀 23 桂 同銀 まで 6 手

〔詰手順〕 13 香 まで 1 手

【作者のコメント】

玉方の持駒桂を 2 2 に移動させる。

【解説】

受方持駒の桂香を見て反射的に銀を 22 に移した両王手の詰型を想像した方もいるかもしれませんが。しかし 16 歩の配置が邪魔な上、持駒を 2 枚とも盤上に戻すのは簡単ではありません。

本局を解くには発想の転換が必要です。

本局は前局と同様、使用駒制限がありますが、その目的は余逆算の防止ではありません。使用駒が限られていることを積極的に利用すること、つまり合駒なしの詰上りを目指すのが本当の目的だったのです。

合駒制限を利用した香の単騎詰に思い至っても、実現の道程は簡単ではありません。単騎詰の邪魔になる銀を移動させ、22 を桂で埋める 2 つの手続きが必要です。

特に複雑なのが桂のやり取り。逆算図から手順を辿ると「盤上の受方駒→盤上の受方駒（移動）→攻方の持駒→盤上の攻方駒（打）→受方の持駒」という経緯を辿ります。「金は天下の回りもの」という言葉がありますが、将棋の駒は駒台や盤上を行ったり来たりします。本局では「桂は天下の回りもの」だったのです。

【短評】

たくぼんさん

合い利かずに気付かず彷徨う事数日。
 ふと気付いてなんだ～

縫田光司さん

16 歩配置のおかげで両王手の詰上りの線が消えているので考えやすかったですが、それでもこの詰上りに気付くまでだいぶ苦労しました。面白い手順ですね。

はなさかしろうさん

平凡にいろいろやって首を傾げましたが・・・なるほど、香単騎ですね。

一乗谷酔象さん

こちらは銀をそっぽに配置して香 1 枚で詰む形。



■ 109-10 変寝夢氏作 (正解 1)5名、2)4名)

リパブリカン

協力自玉スタイルメイト 6手 ※2解

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
	馬					龍			四
									五
							王		六
									七
									八
									九

持駒 桂香

【ルール】

•リパブリカン

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

•協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト(王手は掛かっていないが合法手のない状態)にする。

【解答】

- 1) 38 桂 同龍 29 香 17 玉 39 馬 同龍(+19 王) まで 6手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
									八
						龍	香	王	九

持駒 なし

- 2) 27 香 17 玉 39 馬 同龍 29 桂 27 玉(+19 王) まで 6手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
									八
						龍	桂	王	九

持駒 なし

【作者のコメント】

詰め上がり 29 の駒の種類が違うところが面白いと思いました。

【解説】

玉位置推理型のリパブリカン。

リパブリカンなので、最終手で自玉を発生させねばなりません。その発生場所が 19 であることは推定し易いと思います。

攻方の駒をすべて捨てるという前提で、19 王をスタイルメイトにするとすれば 27 龍型か 38 龍型を作るのが有力です。しかし、馬の位置が悪く、持駒の桂香を捨てる手順では 27 龍型も 38 龍型も作れません。

桂香を 2 枚とも捨てることを諦め、1 枚を龍でピン止めする形を目指すことで初めて正解を

導くことができます。

解けてから改めて考えると、リパブリカンの条件を外して最初から 19 王を置いて同じ手順が正解だったと分かります。皮肉なことに、リパブリカン特有の手筋を追求しない方が解きやすい作品だったわけですね。

【短評】

たくぼんさん

これは初形普通に 19 王置いても作品として成立してますよね。裏をかかれた感じです。

はなさかしろうさん (※解 1)のみ解答)

もう一方がわからない。

占魚亭さん

39 馬を決行するタイミングと 29 地点の駒の違いが肝。

一乗谷酔象さん

ピンされる 29 の駒が変わるが、龍、玉の配置が同じなので 2 解ツインとしては弱いかな？

■ 109-11 変寝夢氏作 (正解 4 名)

リパブリカン

協力自玉ステイルメイト 28 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王			一
										皇	二
								歩			三
								歩			四
								歩			五
	桂		歩								六
		歩									七
	歩										八
	金										九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

【解答】

32 歩生 42 玉 43 歩生 53 玉 54 歩 64 玉
 65 歩 75 玉 76 歩 86 玉 87 歩 同玉
 78 金 76 玉 67 金 65 玉 56 金 54 玉
 45 金 43 玉 34 金 32 玉 23 金 21 玉
 12 金 同玉 15 香 34 金(+14 王) まで 28 手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

											一
										王	二
											三
							香		王		四
									香		五
											六
											七
											八
											九

持駒 なし

【作者のコメント】

新しいルールの際はシンプルな趣向ですね。

【解説】

単玉ならば容易にステイルメイトを達成できる初形ですが、あいにくこれはリパブリカン。最後に自玉を発生させなければいけません。しかも前局と違い盤上は小駒だけ。王手と同時に自玉を発生させて、ステイルメイトにできるでしょうか？

よく見ると小駒ばかりの初形の中に唯一の希望があることが分かります。それは 12 に置かれた香です。これを入手すれば、自玉を合駒に使うリパブリカンの手筋が使えませんか！

自玉を合駒に使い、自由に使える受方の手で自玉を縛る……それが唯一の解決策です。

ただ、12 香を取る前に左辺に駒が取り残されないよう、きちんと手順を踏まねばなりません。3 筋から 8 筋には斜めに歩の階段ができていますので、それは難しくありません。

歩を突き出して玉を 8 筋に呼び、89 金を使って歩を一掃。軽い一往復で余分な駒の消去は完了です。

そのまま香を入手すれば、最終 2 手はリパブリカン特有の手筋。香の打ち場所は自玉の退路を断つ 15 に限定、自由に使える受方の手を使って王が 2 筋に逃げることを防ぐ 34 金を発生させます。

趣向自体は特に目新しいものではありません

んが、これにリパブリカン特有の手筋を使った収束を付けることで、楽しめる作品となっていると思います。

なお、86 桂は不要駒です。作者に問い合わせたところ、これは創作過程の残滓だそうです。本来なら投稿を受け取った時点で担当が気付くべきなのですが、最近はあまりそこまで気が回りません。作品を投稿される際には、完全かどうかのチェックだけでなく、不要駒のチェックも行うようお願いします。

【短評】

たくぼんさん

ラスト3手でしばし熟考。
34 金が思い浮かび難い。

縫田光司さん

見た目の期待通りの軽趣向に、リパブリカンルールを活かした収束が付いて面白い小品だと思います。ところで、86 桂が無いと何がまずいのでしょうか？

☆結論から言うと無くても問題ありません。
筆者もこの短評を読むまでまったく気付きませんでした。ご指摘ありがとうございます。

はなさかしろうさん

この詰形は 109-10 で使うと思っていたのですが。

■ 109-12 Pontamon 氏作（正解 4 名）※余詰

推理将棋

「観戦してた対局は、駒成なく 13 手で詰んだってね」
「うん、対局者の一方は、飛を引く手を指したよ」
「対戦相手は？」
「歩以外のひとつの駒を同じ筋で 4 回指したよ」

[条件]

- 1) 駒成なく 13 手で詰み
- 2) 対局者の一方は、飛を引く手を指した
- 3) 他方の対局者は、歩以外のひとつの駒を同じ筋で 4 回指した

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【作意】

76 歩 42 玉 33 角生 同玉 78 飛 24 玉
77 飛 25 玉 26 歩 同玉 78 飛 27 玉
28 飛 まで 13 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	科	駒	香		香	駒	科	香	
二		飛						飛		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	王	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

【作者のコメント】

余詰を出した 105-6 の解説で、玉の 5 連続着手の 13 手詰手順がいくつかありました。13 手あれば後手玉は 6 連続着手で先手陣まで行けるはずだと思い作図してみました。

後手着手は玉の経路を限定するために同じ筋の 4 回着手の条件でいけそうですが、先手着手は手数が余るため、手数消化のために端の手を絡めた条件などを考えたのですがいまいち。思いついたのが「飛を引く手」で、これでバッチリのはず。ところがこの条件、どこかで見た気がして調べてみると、4 年前のおもちゃ箱での斧間徳子さんの作品「86-2 平成 27 年の指し初めの一局」が全く同じ手順で、「飛を引く手」も条件になっていました。

- 13 手で 27 にいる後手玉が詰んだ
- 2 筋の手が 6 回あった
- 飛車を引く手があった
- 不成の手があった

比べてみると本作では 2 筋着手の筋情報と

玉位置（後手玉は6連続着手が明白だが年賀詰なので仕方ない）を隠した代わりに駒成の可能性を無くした条件になっています。あとは余詰手順調整のために条件を手直ししました。

今回は両王手の手順は紛れ筋になります。

先手が7筋で飛引きも含めて飛の着手4回の両王手。

▲78 飛、△34 歩、▲58 玉、△77 角不成、
▲96 歩、△95 角不成、▲同歩、△42 玉、
▲73 飛不成、△32 玉、▲77 飛不成、△22 玉、
▲72 飛不成

後手が飛4回と飛引きの

▲76 歩、△84 歩、▲44 角、△83 飛、
▲53 角不成、△82 飛、▲71 角不成、△83 飛、
▲53 銀、△82 飛、▲同角不成、△52 金右、
▲71 飛

もあるので、4回着手と飛引きの着手は先後で分担。

4回着手と飛引きを先後で分けても

▲76 歩、△54 歩、▲44 角、△62 銀、
▲同角不成、△52 玉、▲26 歩、△55 歩、
▲27 飛、△56 歩、▲28 飛、△57 歩不成、
▲53 銀

の歩着手4回の手順があるので、駒種は歩以外です。

【解説】

本作は 105-6 の余詰筋を拡張した作品です。この作の余詰順の中には玉が5連続で動くものもありました。本作は更に欲張って、玉が6連続で動く手を作意に据えています。

ただ、玉の6連続着手をそのまま条件に据えることは避け、「ひとつの駒を同じ筋で4回指した」を条件とし、玉の6連続着手が表面に出ないようにしています。

ただ、この手順を成立させるには、今回の条件設定は緩すぎたのでしょう。多数の余詰が発

生し、誰も作意解は見つけれませんでした。各氏の解答は短評の中で紹介します。

以下に作者から送られた修正を示します。

条件 2)、条件 3)で手番を明示し、条件 3)を「4回」から「4 地点」にして、異なる場所であるという条件も加えるのが修正の骨子です。

109-12 (修正)

「観戦してた対局は、駒成なく 13 手で詰んだってね」
「うん、先手は、飛を引く手を指したよ」
「後手は？」
「歩以外のひとつの駒を同じ筋の 4 地点へ指してたよ」

【条件】

- 1) 駒成なく 13 手で詰み
- 2) 先手は、飛を引く手を指した
- 3) 後手は、歩以外のひとつの駒を同じ筋の 4 地点へ指した

推理将棋は今のところ、機械検討できる範囲に限られるので、余詰を防ぐには検討量を増やすしかありません。多数の作品を発表するより、良い素材を選んで、一作に充分な検討の労力を注ぎ込んだ方が良いと筆者は思います。

【短評】

はなさかしろうさん

▲6 六歩 △3 四歩 ▲6 八飛 △6 六角
▲同 飛 △3 二飛 ▲6 三飛不成 △4 二銀
▲5 二角 △3 一飛 ▲4 三角不成 △***
▲6 一飛不成まで は余詰でしょうか？
もしそうならば、13 手でこの条件だけというのがさすがに無理な気がします。

たくぼんさん

76 歩 62 金 55 角 61 玉 73 角生 51 金 82 角生
52 金上 72 飛 51 金 73 飛生 52 金上
71 飛生 迄 13 手
9 手目 11 手目に非限定あるので余詰筋ですね。作意解は難解で筋が浮かびません。

Pontamon さん

空き王手以外の最近のサブテーマは玉の連

続着手。でも余詰んでたら元も子もない。

一乗谷酔象さん

76歩 32飛 33角不成 42銀 同角不成 52玉
56銀 31飛 55銀 14歩 54銀 15歩
53銀不成 まで 13手。

76歩 52金右 33角不成 42金寄 同角不成 52玉
54金 62飛 55金 61飛 54金 14歩
53金 まで 13手。

76歩 42金 33角不成 52玉 42角不成 51金
54金 41金 55金 62飛 54金 61飛
53金 まで 13手。

76歩 52玉 33角不成 51金右 同角不成 61玉
65金 62銀 64金 72飛 63金 71飛 62金
まで 13手。

76歩 32飛 44角 54歩 71角不成 52玉
56銀 42銀 55銀 51銀 54銀 31飛
53銀不成 まで 13手。

76歩 74歩 75歩 同歩 78飛 73桂
75飛 81飛 73飛不成 64歩 72飛不成 65歩
63桂 まで 13手。

76歩 74歩 75歩 同歩 78飛 73桂
75飛 81飛 73飛不成 72金 同飛不成 32金
52金 まで 13手。

4回着手の駒は、飛か取った金銀かと考えたが、どれも詰んでしまった。どの順も非限定があるので作意は特定できなかった。



【総評】

たくぼんさん

Imitator だけでも難渋しているのに中立駒まで絡んで解答者には苦難の時代が来たようです。

変寝夢さん

109-6 だけでも解けて良かった。

Pontamonさん

今月は、締め切り日は棋力3倍を実感できた。一応、予定通りの3問解答。

一乗谷酔象さん

この3日間花粉症が酷く集中できてません。

☆筆者も花粉症に悩まされていますが、今年は特にキツイと感じています。頭痛や目の痒みのせいで、細かいことに気を回せませんし、文章を書く時も、言葉がまとまらなくて困ります。本稿の作成は、早目に作稿に着手し、機械的に埋められる所から原稿を埋めていくことで対処していますが、果たして大丈夫でしょうか？ もし原稿の誤り等に気付きましたら、遠慮なくお知らせください。

★「将棋墨酔」第36番、解答

七條兼三作
詰将棋 95手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	銀		と						酒	
二	歩	銀		酒				歩	と	
三	歩		歩	歩	歩		歩	と		
四			歩	歩	歩	歩	歩			
五										
六	金								玉	
七	ス			龍						
八			桂	歩	歩	桂	桂	ス	酒	
九									桂	

持駒 歩
(詰将棋パラダイス,1980年12月)

神無七郎さんのフェアリー詰将棋解説にはいつも感心させられる。どんなゲテモノも厭わず、作品の特徴の丁寧な説明は作者以上だ。WFP129号(2019年3月)掲載の第108回WFP作品展特別出題sp2の結果稿しかり。

『不審な方程式』や『まるで容疑者全員が犯人だった推理小説を読んでいる気分』などの感覚に訴える共感しやすい表現はさすがである。作者の味気ない投稿原稿とは全然違う。

そういう背景(どんなものでもきれいに処理してもらえる)があつてか、特別出題sp2の投稿原稿はいい加減になっていたようだ。誤記や誤解を招く表現があり、七郎さんの解説に影響してしまった。まずはその訂正を。

① WFP129号P35左側中段付近
この結果を、**Q(n)-Leaper**の定義に適用する。
 $a_1, a_2, a_3, \dots, a_p$ の中で a_1 が最大だと a_p の添え字は p ではなくて n が正しい。
投稿原稿の誤記である。

② WFP129号P36右側中段付近
本局は**Q(5)-Leaper**についての解を求めよという形式で出題されていますが、実は**5**以上の素数 p を使った**Q(p)-Leaper**でもまったく同じ手順が正解となります。
本局で「左下無限盤」が使われているのは伊達や酔狂ではありません。「**5**をもっと大きい素数に置き換えても同じですよ」という作者からの隠れたメッセージだったので。

5以上の素数でも同じ手順というのは正しいが、素数に限った話ではない。**7**以上であれば任意の自然数でも同じ手順になる。

投稿原稿では、 p が素数のときの**Q(p)-Leaper**の具体的な利きと、 n が一般的な自然数のときの**Q(n)-Leaper**を使った場合の手順を続けて書いてしまっていた。話題の切り替えを明示しておくべきであった。

閑話休題。七郎さんが解説で指摘している通り、この作品は「数学パートと詰将棋パートが完全に分離」している。なぜなら、もともと数学パートは詰将棋とは無関係にできたものだから。きっかけは、働く環境がいろいろと変る年齢になってきたこと。Z会のアルバイトくらいなら何の準備もなく小遣いかせぎできるかなと思ったのだが、ちょっと調べてみると添削は時

給換算すると大した額にはならず、『教育に対する情熱が必要不可欠』らしい。たぶん情熱はない。問題作成というのもあり、これなら趣味と割り切れるのだが、分野と『レベル(難易度)』指定があるとのこと。『レベル』の加減などできるわけがない。

というということでZ会アルバイト作戦はいったん保留にしたのだが、数学の問題作成のスイッチが中途半端に入ってしまった。基本的なところだと解と係数の関係か。これを題材にあれこれ考えてみた。七郎さんが言うところの係数を使い回している下記ペアがいずれも2つの自然数解を持つことは以前から知っていた。

$$x^2 - 5x + 6 = 0 \quad x = 2, 3$$

$$x^2 - 6x + 5 = 0 \quad x = 1, 5$$

これだけだといかにもつまらないので、使い回す係数の数を増やすことを考える。その前に減らしてみる。

$$x^2 - 4x + 4 = 0 \quad x = 2$$

3つに増やすとこうなる。

$$x^2 - 6x + 8 = 0 \quad x = 2, 4$$

$$x^2 - 7x + 6 = 0 \quad x = 1, 6$$

$$x^2 - 8x + 7 = 0 \quad x = 1, 7$$

以下、いくらでも増やすことができ、しかもその組み合わせは本質的にひと組しかないことも判明。数学の問題としてはこれで完成であろう。『レベル』はよくかわらないが。

それで、2つの自然数の組を見ていると自然にLeaperを連想してしまうのはフェアリストの習い。**Q(n)-Leaper**を(1,1)に配してみると、ある程度大きな n に対しては、その利きは2筋と二段目に集中し、その他の利き (x,y) は、

$$(x - 1)(y - 1) = n$$

を満たす。これをカバーするように、**P(n)-Leaper**の利きを定義し、(2,2)に配置すれば、フェアリー詰将棋の創作としてはほぼ完成であろう。後は作意が一意になるようにルールと持駒(と盤駒)を調整するだけ。

こうしてできたのが特別懸賞sp2他のシリーズなのだ。(駆け足失礼)

Fairy TopIX2018投票要項

Fairy TopIXとはウェブサイトで発表されたフェアリー詰将棋・推理将棋・ブルーフゲームを対象にお気に入り投票を行い、上位作に授賞するものです。Fairy TopIX2018は2018年にウェブサイトで発表された作品の中からお気に入り投票によって選ばれます。

【投票宛先】

WFP事務局(たくぼん)宛にメールにてお願いします。 takuji@dokidoki.ne.jp

【スケジュール】

投票開始：2018年4月5日

投票締切：2018年5月10日

結果発表：WFP平成31年5月号(131号)

【対象】

2018年にWeb Fairy Paradise誌に掲載された作品(過去作の紹介作は除く)。なお詳しくは後日発行予定の対象作品一覧で確認下さい。またWFP作品展につきましては神無七郎氏のサイト(OFM)でも全作品動く盤面で鑑賞いただけますのでそちらを参照下さい。

候補作一覧は下記のアドレスよりご覧下さい

<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/Fairytop92018.html>

【部門区分】

【フェアリー詰将棋】

短編部門：～15手 候補作99作

中編部門：16～49手 候補作18作

長編部門：50手～ 候補作16作

推理将棋・ブルーフゲーム 手数区分なし

候補作21作

以上4部門となります。

【投票の仕方】

お気に入り投票として実施しますので何作投票していただいても構いませんが、お気に入り上位3作には1位～3位までの明記下さい。

投票の際には集計間違いを防ぐため下記の項目を記載いただくと助かります。

- ・ 部門名
- ・ WFP何月号(または何号)
- ・ 作品展名(またはコーナー名)
- ・ (あれば)作品番号
- ・ 作者名&ルール名&手数
- ・ 投票作品へのコメント(部門別及び全体通してのコメントも出来ればお願いします)

*なお対象作品一覧には通し番号を打っていますのでそちらの記載でも構いません。

【投票集計方法】

投票順位に応じて作品毎に下記ポイントを加算し、各部門での合計ポイント順に授賞します。

1位：5点、

2位：3点

3位：2点

上記以外：1点

各部門得票数上位3作までが授賞となります。作者に授賞コメントをお願いすることになりますのでご協力よろしく申し上げます。

お気に入り投票ですので、全部の作品を見てなくても構いません。お気に入りの作品をお好きなだけ書いて投票いただければ結構です。1票でも得票がある作品はすべて5月号に掲載いたします。今年もたくさんの投票をよろしくお願いいたします。

(注)中編の部中2の尾形作は15手で正しくは短編の部でした。短99として変更しました。中2は空番となります。(4/17修正)

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2019年5月15日(水)

第110回 WFP 作品展

フェアリー作品 11題
推理将棋 1題

2019年6月15日(土)

第111回 WFP 作品展

フェアリー作品 14題
推理将棋 3題

作品募集締切一覧

Fairy of the Forest#59

- 2019年03月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2019年05月15日：投稿締切
- 2019年05月20日：出題
- 2019年06月15日：解答締切
- 2019年06月20日：結果発表

■ 課題発表

スケジュールがずれたままなのは気になっているのですが、当面はこのままで。大型連休を利用して、作図を楽しまれてください(作図どころではない?)。

(投稿先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

祝改元記念作品展

今月4月30日で平成が終わりを迎え、5月1日より令和が始まります。新天皇即位を祝い祝改元記念作品展を開催します。タイミングの

に次号の開催になりますので募集機関がヶ月と短いですがたくさんの皆様の参加をお願いします。

- ・ルール・手数・条件は問わず、フェアリー作品(最善詰含む)、推理将棋、プルーブゲームなど
- ・一応令和への改元を祝うに相応しい(?) ← 厳格な規定はありません(笑)

(おまけ) 担当者の解答を希望する場合は、投稿の際に解答未記入で投稿下さい(検討はしっかりお願いします)。その場合は担当者よりメールにて解答を送りますので、その後、解答・狙い、コメントをお送り下さい。解けなかった場合はギブアップメールを送ります。

投稿締切：令和元年5月18日(土)
送り先：たくぼん (takuji@dokidoki.ne.jp)

なお、投稿が無かった場合には、この作品展はうやむやになります(そうならない様お願いしますね)

あとがき

FairyTopIX2018お気に入り投票受付中です。まだ投票者数は0。皆様よろしくお願い致します。

たくぼん

2019年 第130号

Web Fairy Paradise

非売品
平成三十一年四月号
平成三十一年四月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市
発行兼編集人 須川卓二
発行所 Web Fairy Paradise 編集部
問合せ先
須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp